「真夏の空の下で考えた、海外で学ぶ意義」
伊原　由美子

　雪ふる埼玉県から、真夏のゴールドコーストで 5 週間語学研修をさせていただきました。体調を崩すどころか真夏を満喫しつつ、充実した日々でした。派遣してくださった埼玉県に謝意と、県民の皆様へご報告をいたします。
　報告は、語学研修について、次に生活について、最後に海外で学ぶ意義についての内容となります。
　語学研修は、ゴールドコースト空港の隣に位置する、サザンクロス大学ゴールドコーストキャンパスで行いました。語学学校は 99%が日本人でした。複数の日本の大学の海外研修先でもあり、20～30 人単位で日本人大学生が参加していました。先生は曜日によって変わり、私のいたクラスは 2 人の先生が担当してくださいました。担当の先生のスキルはとても高く、生徒のニーズに合わせた内容を工夫してくださいました。今回特に、発音矯正とディスカッション力を付けたいと先生方に相談したところ、授業内容を合わせてくださいました。5 週間目には、プレゼンテーションとワークショップをさせていただき、英語である程度高度な内容を提案するという、今後に生きる経験をさせていただきました。
　研修先のサザンクロス大学は、学生支援が実に手厚い大学だと感じました。学生が自由に利用できる大きな学生サロンには、朝食用のシリアルやパン、牛乳、紅茶、バターなどが準備されていて、私も利用させていただきました。大変おいしいパエリアとアイスクリームのランチや、マフィンやフルーツのブランチ、文房具が無料で提供され、大学主催の交流会など、毎週何か主催してくださることが楽しみでした。そして、スタッフの方が、「何か困っていないか」「授業レベルは合っているか」など面談をしてくださり、安心して学ぶことに専念できました。大学のキャンパスは、わかりやすく建物が配置されており、移動もスムーズでした。
　ゴールドコーストでは、友人宅にお世話になりました。公共交通機関が発達しており、日本のスイカに似た「GO CARD」でバス、トラム、電車に乗ることが出来ました。友人宅から毎日大学までバスで通学しました。平日は 14：20 には授業が終わるため、ビーチを歩いたりスーパーに行ったりと、生活を楽しめました。ゴールドコーストでは、地元の人々の朝はとても早く 5 時には散歩やジョギングをしていました。店やカフェも朝 7 時にオープンし、14 時には閉まってしまいます。そこで、私の生活も朝早く、夜早い生活スタイルになりました。地元の人々にはオーガニックや、ジム・ヨガ通いが流行っており、病気を予防することを日常的に実践していると感じました。私も自然と、毎日最短 50 分は歩き、早寝早起きの生活になったため、体調はとても良かったです。

ゴールドコーストは明るいムードで、人々はプラベートの生活を各々楽しんでいました。2032 年夏のオリンピック開催がブリスベンで決まっており、ゴールドコーストが会場となる競技も複数あり、建築ラッシュでした。しかも、クイーンズランド州はコロナ禍でロックダウンしなかったため国内からの移住希望者が多く、現在住居不足が深刻であるため、住居も建築中でした。インフレが深刻で、常に地元の人々の話題の一つでもありましたが、将来に対しては明るい見通しを持っていました。過去 30 年間で確実に経済成長してきたオーストラリアの経済力は、とても強いと感じました。

最後に、コロナ禍以降初めて海外に出て日本を眺め気が付いたことを記します。まず真っ先に感じたことは、日本から出て海外に身を置くことで見えることが多く、日本の日常で「当たり前」である価値観が「当たり前」ではないことに気が付くことが多いということです。例えば、ブリスベンからケアンズまで、25 時間かかる列車の旅をしたとき、徐々に列車が遅れ結局ケアンズに着いたのは予定より 3 時間後でした。しかし、乗客でイライラしている人、苦情を言っている人は少なくとも周囲には居ませんでした。みなさん、思い思いに本を読んだり、眠ったりしており、鉄道会社も車内アナウンスでは遅れを謝罪はしていましたが、誰も慌てていませんでした。私だけ、遅れていることを気に病んでいました。その後の予定は何もないにもかかわらずです。

さらに、こんなこともありました。週末に、山の中に住んでいる友人宅に 1 泊したとき、夕方と翌朝、カラオケで熱唱している声が聞こえてきました。友人に聞くと、隣人とのことです。鳥の鳴き声しかしない静かな山の中でのカラオケの大音量。苦情を言いに行くのかな？と友人と話しをすると、「彼女には必要なのよ」と笑っています。聞くと 2 年前に引っ越してきた方で、趣味がカラオケとのこと。苦情どころか、隣人の楽しみを尊重していました。

滞在中、「Are you happy?」と地元の人に良く聞かれました。「人生はそれほど困難ではない」と友人が口にしていました。日本の中にいると気が付きにくい違う価値観に触れ自身の価値観を多様化することは、違いを楽しんだり許容できるのではないかと考えました。こういったことを肌で感じ、経験することが海外で学ぶ意義ではないかと実感しました。

オーストラリアでは、日本は観光したい国ナンバーワンです。多くのオーストラリアの人々が日本に憧れ、日本行きを楽しみにしています。そして、日本人を「礼儀正しく、相手を尊重する」「穏やかで親切」と評しています。私は、このような彼らの中の「日本像」に応えられるような日本でありたいと強く思います。そして、日本に住むすべての人が、「お互い幸せ」だと感じることができるような社会になって欲しいと考えます。そのような国は、ますます魅力的なのではないでしょうか。このような発想が、人口減、経済発展できなくなり、労働人口不

足の日本で問題の解決の糸口にならないかと、遠いオーストラリアで空を見上げながら考えました。

　毎日ニュースを見ることも楽しんでいたので、オーストラリアも深刻な問題があることも知りました。日本にも解決したい問題が沢山あります。今回の貴重な経験と、友人たちとの繋がりを今後、教職という仕事や現在取り組んでいる学習支援ボランティア活動に活かしていきます。それが、今回派遣してくださった埼玉県と県民の皆さんへの恩返しと考えています。

ワークショップ中。

「コバトン」だるまを記念にお渡ししました。

ある日の無料提供だったパエリアランチ。

透明な海。サウスビーチにて。学校帰り。